

働きながら学ぶ現職教師のための遠隔大学院の展開（１）

－岐阜大学大学院教育学研究科「カリキュラム開発専攻」の教育課程－

Development and implementation of graduate school program for in-service teachers through distance learning (1)

.. Arrangements and teaching methods of courses for in-service school teachers at department of curriculum development, Gifu university ..

村瀬 康一郎
Koichiro MURASE

益子典文
Norifumi MASHIKO

加藤 直樹
Naoki KATO

古田 善伯
Yoshinori FURUTA

益川 浩一
Koichi MASUKAWA

岐阜大学
Gifu University

＜あらまし＞ 岐阜大学大学院教育学研究科では、現職教員に対する修士レベルの研修機会を拡大提供するために、テレビ会議システム等を用いて多地点のサテライト教室を結び遠隔講義を行っている。また、学修意欲がある教員がその意志のみで大学院で学べるよう、夜間開講を中心とし、個々の実践上の課題に柔軟に対応できるように教育課程を編成した「カリキュラム開発専攻」を設置した。

キーワード：教員研修、夜間遠隔大学院、カリキュラム開発専攻、遠隔教育、テレビ会議システム、e-Learning システム

1. はじめに

教師の力量や専門性を高めるために、現職教員の大学院修士課程レベルでの研修の必要性が指摘され、さまざまな方策が実施されつつある。しかしながら現実には、大学がある地域の教員しか大学院に通えず、遠隔地の教員は何時間もの移動時間と交通費といった経済面で、また勤務校を離れることでの学校・学級経営面や生徒指導面、家庭生活などに与える影響を考えると困難であり、研修機会の公平性の観点で大きな問題が生ずる。また、専修免許取得者に対する給与面を含む処遇改善が検討されつつあり、この点でも公平性確保が課題となる。さらに教員個人の問題にとどまらず、遠隔地域が抱える教育格差を教員の資質向上をとおして解消することや、教育力の維持・向上といった課題解決に大きな支障が出てくる。

これらを解決する方法として、岐阜大学教育学研究科では、平成11年より、昼夜開講制にもとづく夜間・遠隔大学院を設置し、遠隔地の教員も大学院で学修可能とした。すなわち、大学

院授業の教室と遠隔地のサテライト教室を、リアルタイム及び双方向性のあるテレビ会議システムなどで結び、大学から遠く離れた地域の教員も受講できるようにするものである。特にこれまで県費派遣による大学院研修では研修を受けられる人数が限られていたが、夜間開講により、勤務時間が終わってからのプライベートな時間を利用した教員の学習意欲のみによる大学院研修を可能にした。さらに平成14年度からは、カリキュラム開発専攻を設置し、学校教員の教育実践課題に柔軟に対応できるような教育課程編成を行っている。

本稿では、岐阜大学教育学研究科「カリキュラム開発専攻」での夜間・遠隔大学院の実施状況について述べる。

2. 「カリキュラム開発専攻」の教育課程

岐阜大学教育学研究科の夜間開講の授業は、テレビ会議システムで高山・土岐・各務原・大垣・岐阜大附属学校及び熊本市の各サテライト遠隔教室を結び（図）、各地区にいる現職教員の院生及び科目履修生が講義を受けられるよ

うにした。

課題研究を除く修了に必要な24単位を、週1日の夕方6時からの講義277(2年間で87716単位)と集中講義(同4778単位)で取得できるようカリキュラム上の工夫をしている。また、年に何回かサテライトに出向いての講義や課題研究指導のための旅費が研究科内で措置されている。さらに長期履修制度の適用も院生の希望にもとづき行っている。

サテライト教室にはテレビ会議システムのほかFAX、コピー機、参考資料及びインターネット端末を整備し、講義資料の配布・複写、質疑応答が簡便にできるよう配慮している。さらに院生には自宅や勤務先からのインターネット利用を義務づけて、電子メールによるレポート提出や質疑のほか、メディア統合型e-LearningシステムのAIMS-Gifuを用いて科目ごとに、掲示板等での担当教員や他の受講生とのコミュニケーション、学習資料のダウンロードができるようにしている。さらに急用が発生し、その日の授業に参加できなくなる院生のために、授業を自動的に録画し、VODシステムでいつでも過去の講義を復習可能としている。またIP接続による遠隔ゼミシステムも導入している(詳細別稿参照)。

カリキュラム開発専攻は、現職教員等を主な対象として、学校や地域社会の多様な教育ニーズに対応するカリキュラム開発能力、学校と地域社会の連携を促進するための教育システム開発能力、地域性に配慮した学習内容の教材化に関わる学習情報開発能力の伸長を図ることをその目的としている。そのため、カリキュラム開発研究の基礎的科目である「カリキュラム開発」科目群、教育方法の改善研究のための「教育システム開発」科目群、教育内容の改善研究のための「学習情報開発」の3分野で構成されている。それら授業の特徴は、複数教員による授業実施である。教員の多様な実践課題についてなるべく多くの大学教員が関わり、課題共有

や解決方策の検討を図るものである(詳細別稿参照)。特に全教員の協力体制による「カリキュラム総合開発実践研究Ⅰ・Ⅱ」は、対面型の公開討議方式により現職教員等の意見を集約した学校を基礎としてカリキュラム開発への接近を図るものである。

課題研究の指導体制も、カリキュラム開発専攻の専任教員だけでなく、院生の研究内容と希望により、関連する教科教育専攻の教員との複数指導体制をとることが研究科内で合意されている。

本専攻の取り組みは、特色ある大学教育支援プログラムで今回採択された、岐阜大学「地域・大学共生型教師教育システム」のアウトリーチ型遠隔教育プログラム(地域のニーズに応じ、学校教員が在勤のまま高度な専門的資質・能力を身に付けることを可能とするため、テレビ会議システム等の情報通信技術を利用した遠隔手法による大学院相当の学修機会の拡大を図る)の一部を成すものである。

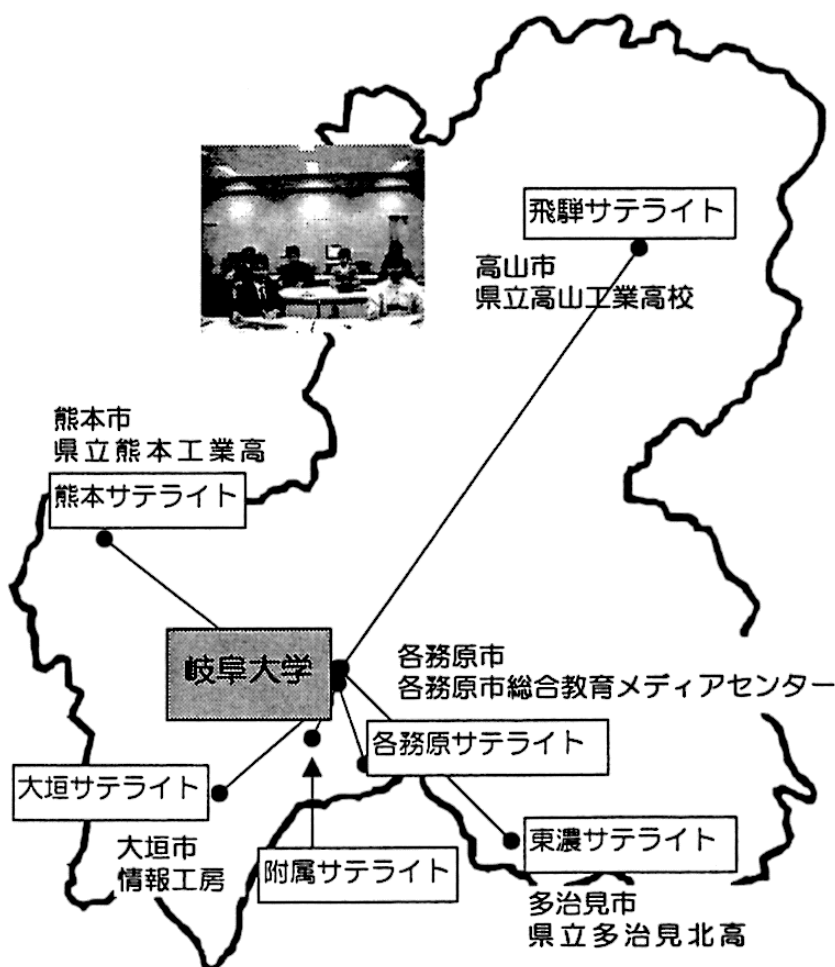


図 岐阜大学・夜間遠隔大学院のサテライト教室の位置